

事例番号:380045

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第七部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 29 週 2 日 - 超音波断層法で胎児の両側脳室拡大あり、胎児心拍数陣痛
図で基線細変動減少、一過性頻脈消失を認める

妊娠 32 週 6 日 胎児発育遅延、胎児奇形管理のため入院、胎児心拍数陣痛
図で軽度変動一過性徐脈の頻出を認める

3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

4) 分娩経過

妊娠 33 週 1 日

6:51 - 胎児心拍数陣痛図で、軽度変動一過性徐脈の頻出を認める

12:30 胎児機能不全のため帝王切開により児娩出、骨盤位

胎児付属物所見 胎盤重量 240g

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:33 週 1 日

(2) 出生時体重:800g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.30、BE -3.4mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 4 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 早産児、軽度新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

出生当日 早産児、軽度新生児仮死、超音波断層法で側脳室拡大と脳室壁に一部高輝度あり

生後 85 日 頭部 MRI で小脳虫部・半球の低形成、脳室拡大、脳梁菲薄化や出血の所見あり

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 3 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 29 週 2 日以前に生じた児の脳室内出血である
と考える。

(2) 早産期の児の脳血管の特徴を背景に、臍帯血流障害による胎児の脳の血流
の不安定性および胎盤機能不全が、脳室内出血の発症に関与した可能性が
ある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

(1) 妊娠 29 週 2 日に腹部腫瘤の精査加療のため紹介受診後の妊娠中の外来管
理(ノンストレス実施、超音波断層法実施)は一般的である。

(2) 妊娠 32 週 6 日に胎児発育遅延や胎児奇形の管理のため入院としたこと、お
よび入院中の管理(適宜ノンストレス実施、超音波断層法実施)は、いずれも一
般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 33 週 1 日、超音波断層法で胎児の羊水過少、骨盤位、胎動減少、胎児心
拍数陣痛図で胎児心拍数低下を認めたため胎児機能不全と判断し帝王切開
としたことは一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

(3) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。